

2019年 か ぜ ひ か

風光れ

人権のたより 第13号 5月17日発行

三重県立津東高等学校



薫風・・・さわやかな季節の中、中間テストにも力を発揮できたでしょう。

ツバメ(燕)が雛を育てている姿をよく見かけます。

春の訪れとともに日本にやってくるツバメたちは、いずれも渡り鳥で5種類ほどいるそうです。スズメ目の鳥です。

日本においては、水稲栽培において穀物を食べず害虫を食べてくれる益鳥として古くから大切にされ、ツバメを殺したり巣や雛に悪戯をする事を慣習的に禁じ、農村部を中心に大切に扱われてきました。江戸時代にはツバメの糞は雑草の駆除に役立つと考えられていました。「雷や家事から家を守る」「商売繁盛」「子宝に恵まれる」など、とにかく愛されています。ツバメの巣が軒先にある家は、快適な環境で訪れる人も多い明るくにぎやかな家ということなのでしょう。ツバメが巣を作るのは居心地のよい家の証明ともいえるため、縁起が良いと考えられているわけですね。

しかし、近年は、フンが落ちることが嫌われ、迷惑だという話を耳にする機会が増えてきました。ツバメは街の暮らしやすさを示すもののように思います。今後、人の気配が途切れないような場所を確保するためには、人もツバメもコンパクトに集まって住むことを考える必要があるのかもしれませんが、ツバメの巣を壊すこと自体は、縁起が悪いわけではありませんが、産卵後の巣を意図的に壊すのは鳥獣保護法違反になります。法律でも守られているのですね。みなさんもツバメの巣を見かけたら、立ち止まって見守ってあげましょう。ツバメを介して、人と人とのつながりも生まれていくかもしれませんね。フンが落ちるのは子育て期間中の2週間程度です。だから、段ボールなどで簡単な「フン受け」を設置してあげればフンの汚れは防ぐことができるはずです。多くの人々が工夫して想いを形にしています。

童話「幸福な王子」(オスカー・ワイルド)を紹介します。

ある町の高い円柱の上に「幸福な王子」と呼ばれる立像がありました。あるときそこへ飛んできたツバメがひと休みしようと降りると、王子の眼から涙がこぼれているのに気づき、そのわけをたずねました。王子は「高いところから町を見ていると、かわいそうなことが起きているのがわかって悲しいから」と答えました。情ぶかい王子に感心したツバメは、王子の目になっている宝石や、からだに張ってある金パクを不幸な人に届ける役をひき受けて働きました。やがて冬が来て、ツバメは凍(こご)え死に、王子の像もボロボロになってこわされましたが、やさしい王子とツバメは天国に召されていきました。



すべてのものに優しい見守りを・・・おだやかに潤っていきましょう。

